

# 日本高齢期運動連絡会ニュース

発行責任者 畑中 久明 発行所 日本高齢期運動連絡会  
〒164-0011 東京都中野区中央 5-48-5 シャンポール中野 504 号  
TEL/fax03-3384-6654 E-Mail nihonkouren@nifty.com  
<http://www.nihonkouren.jp>

No.356  
発行 2023 年 1 月 15 日



2022 年 11 月 24 日 京都大会全体会で日本高齢者人権宣言を採択・確認

**1/16 日本高齢者大会中央実行委員会総会を開催 35 名が参加**  
第35回日本高齢者大会 in 京都(11/23・24)のまとめ  
第36回日本高齢者大会方針と東京大会の中央実行委員会の結成を確認  
日本高齢者人権宣言を活かし、要求運動と結び付けて、高齢期の組織を強化し、  
東京大会の成功につなげていこう

東京大会は 2023年11月12日(日)・13日(月)

総会に先立ち、代表委員の吉岡さんより開会の  
あいさつがありました

## 開会挨拶

日本高連 代表委員 吉岡尚志さん

皆さん、あけましておめでとうございます。  
岸田政権は大軍拡を強め、専守防衛を踏みにじり、  
敵基地攻撃体制を進めています。安保3文書の改定、  
アメリカに従属的な防衛政策。「広島」という名を騙る詐欺師のような岸田内閣。広島

でG7 サミット開催。そして、まともな外交努力なく自分の延命を  
図ろうとしている。国債の発行か、税金か、社会保障の削減か、  
ロシア・ウクライナ戦争の危機に便乗して大軍拡路線をひた走り、  
太平洋戦争



前夜のような状況になっている。大軍拡の前に、社会保障削減が当たり前といった雰囲気です。こうした状況の下で東京大会、その意義と役割は極めて大きい。戦争反対、原発存続反対、拡大反対、社会保障大改悪反対の声を広げ、現役、若者世代と手を組んで運動をすすめてみましょう。日本高齢者人権宣言の視点で呼びかけを強め、東京大会をぜひ成功させましょう。

#### 議長に日本高齢期運動連絡会代表委員

林泰則さん（全日本  
民医連）を選出



京都実行委員会より  
藤原克東事務局長が  
挨拶と報告をしました。

11月の大会、全  
国のご協力ありが  
とうございました。  
まとめて中央  
に提出しています



ので、報告書をご覧ください。いくつかの反省点もあり、また積極的に活かしていくべき側面もあり、私共として今後活かしていく運動が必要だと考えています。国会でも、国民にも内容を知らせることなく進む「新しい戦前」という事態の中で、高齢者福祉を筆頭に社会保障制度への圧迫が強まることが予想され、くらしと民主主義を守る大きな運動が必要です。今後「高齢者人権宣言」をさらに広く国民の中に広げ、高齢期運動の新たな発展に奮闘する決意をしています。

#### 議案提案

### 第35回京都大会のまとめ

日本高齢期運動連絡会畑中久明 事務局長

続いて畑中事務局長より京都大会の振り返りが報告されました。

現地開催とオンラインの併用と経験のない大会。京都実行委員会のみなさんの大変な努力と、全国の仲間の協力で無事開催できたことに心より感謝申し上げます。



まさに日本社会が岐路に立っている、そうした情勢のもとで、京都大会は日本高齢者人権宣言を採択し、戦争ではなく、平和と人権が守られる社会にしていくことが日本の進路であることを力強く指し示すことができた。そしてこの成果を日本の全国に、そして世界に広げ、くらしに活かし、政治を変えていく、そのために不断の努力を重ねていくことを確認する記念する大会となりました。

#### 参加者数

全国 39 地方から、二日間で延べ 3,380 人

コロナ感染の影響で、開催地より遠隔した地域からは現地参加が弱まり、オンライン参加を重視する傾向。目標を確保するためのとりくみの強化が求められます。

#### 大会開催意義からのふりかえり

(1)「日本高齢者人権宣言」を採択、高齢期運動を飛躍させる決意を固めあう大会となりました。5つの学習企画、9つの分科会は憲法、社会保障、くらし、若者との交流と内容豊かなものとなりました。世代間分断が進められる中、「高齢者も若者も手をつなぎ、いのち・くらしを守る政治を 憲法を生かし『高齢者人権宣言』で豊かに」のスローガンに沿った大会を開くことができた。

(2)学習講座・分科会の講師・助言者にも地元の協力を得て、「憲法を暮らしの中」を活動のスローガンにしてきた京都の闘いから学び、また、沖縄や全国の運動も交流して今後活かすとりくみになりました。

(3)移動分科会、夜の交流会、また全体会の狂言など関係者の協力で京都の文化から学ぶ大会となりました。

(4)イタリア年金者組合の代表の参加で、日本の年金がいかに低いのか、高齢者の運動など世界的な視野での高齢者の人権を守る運動を学べる大会となりました。

## 大会運営などへの意見について

### 企画について

企画は、好評、全体会の山極先生は今大会にふさわしい講演だった。／ジェンダー平等という角度で学習講座を高齢者大会で持ったのは初めてだったのではないか／交流会、利き酒は盛り上がった／お茶席、本格的な内容でさすが京都／歓迎行事の狂言は、力強さ伝統の素晴らしさを実感でき、京都の文化にふれることができた

### 会場施設について

予定した会場が満員で入れなかった／講座・分科会参加、当日資料作成の枚数など予測が難しい／会場が分散したがその大変さを実感した

### 運営など

全体会時間変更、前日の講座・分科会の時重ねて知らせるべき／京都の要員の方の大奮闘に感謝します／web 機械操作などの人材を育てることが課題／打合せの時間を作った方がよいのではないか

### 大会決算について

損益は▲78万円(1/10時点)の赤字。現地参加者数が伸びなかった。一方、全体費用は予算内だが、会場費が超過。大会を継続・発展させるためには、資金の確保は不可欠。オンラインの環境費用が掛かります。オンライン参加費について大会を支える面から検討が必要です。

## 討議

日本高連 事務局次長 寺崎由郎さん

大会の成果を強化に活かしていこう

コロナの関係で実参加をためらう方が多かった。ただ、年金者組合は各支部のニュースに参加者の感想を掲載し、組合員の拡大に活かしている。

自分たちの組織強化

にどう役立てているかは総括が必要。運動の継承のためにも、成果を組織強化に役立てる意識づけをしよう。



奈良県連 近畿ブロック 藤垣全弘さん

「宣言」を広げる努力を

自身入院で、医療費窓口負担で年金1か月分が消えた。負担の重さ実感した。

ブロックが現地の運営を支えていく必要がある。

「宣言」を次の大会までにどう広げるか論議をしている。



日本高連 代表委員 吉岡尚志さん

分科会が充実した経験を東京大会に活かす

第1分科会で事前に4から5回WEBでも事前打ち合わせをした。

分科会どんな討議をするのかを演者の中で意思統一した。

当日の報告や討議がかなり充実した内容になった。

今度の東京大会に活かしていきたい。





日本高連 事務局次長 加藤益雄さん  
(全日本年金者組合)

イタリア大会で「宣言」の活動を報告する  
人権宣言を広げる価値がある。日本高齢者人権宣言を活かした年金者組合の活動を検討しておる。今後イタリア年金者組合の大会に招待されている、その機会に紹介していきたい。



日本高連 代表委員 杉澤隆宣さん  
(全日本年金者組合)

組合として「宣言」を運動課題に具体化  
日本高齢者人権宣言の具体化を議論している。宣言の23項目の内6項目を特に強めたい  
①年齢による差別の廃止②十分な生活水準への権利 ③交通権・移動の自由④文化および科学の成果を享受する権利 ⑤レクリエーション⑥労働権、この6点を運動化しようと、6月に定期大会があるので具体的に方針にしていきたい。」



日本高連 代表委員 林泰則さん  
(全日本民医連)

集まることの大切さを実感。全体的に大変良い内容だった。高齢者人権宣言の視点から介護保険制度にはどういう問題あるか、議論をすすめていくと、高齢者の社会保障のあり方・ケアのあり方の議論につながっていくのかなと感じています。



日本高連 事務局次長 寺崎由郎さん (三重)  
今年は「宣言」を神棚から降ろすとくりくみを

人権宣言の学習講座できょうされんの藤井さんの講演は大変良かった。党派を超えてジェンダー問題でも選択議定書(国連が個人の通報

を受理・審議する手続きについて定めている)の批准の要求・声が起こっている。介護保険でも女性の年金が低いのも、法律がおかしいんだと声を挙げたい。選択議定書や権利条約が批准された時には第一に日本国政府が指摘され法案の修正が求められる。法的な問題を弁護士の先生とも協力して、「宣言」と紐づけして、患者、利用者、組合員に訴えていく、こうした取り組みで、神棚の上から「宣言」をおろすことを今年はやりたい。



日本高連 事務局次長 菅谷正見さん (東京)  
web 活用で、一桁、二桁上の参加を組織することを探求しよう

web 併用について今回考えた。リアル大会も追及していく、その値打ちをうちだすこと、同時に web なしは今なく、費用のことも考えること。また、web が1万でも10万でも参加できる、参加規模を一桁、二桁増やせる。  
今回 YouTube を使ったが zoom との違いを感じた。使い分けを今後考えたい。



日本高連 事務局次長 田中英男さん (茨城)  
現地参加の意義を強く押し出していこう

京都の皆さんご苦労様でした。東北や遠い地域の参加が少ない、現地に参加していない地域の参加が少ない。現地参加の意義を強調していく必要がある。赤字決算はこれまでになかった、よく点検してこうしたことがないように。会場を集中していけるように。



討論を踏まえて、畑中事務局長がまとめをおこない、京都大会のまとめと中央実行委員会を解散することを確認しました。

### 討論のまとめ 畑中久明事務局長

討論では現地への参加の意義が強調されました。今後も追及していきましょう。京都では近畿ブロックが実行委員会に参加しましたが、近県のかかわりを今後活かしていきましょう。高齢者大会を高齢期運動の前進と組織強化に活かしていくこと、そして今年是人権宣言の実践を課題にしていきましょう。京都実行委員会を解散し、東京実行委員会につなげていきましょう。



続いて、東京大会の第1回中央実行委員会総会を行いました。

大会の意義、大会概要、大会予算方針について畑中事務局長が提案しました。

## 第36回日本高齢者大会 in 東京

### 大会開催の意義・目的

(1) 日本の国のあり方が戦争する国へと大転換がはかれようとしています。世界で3番目の軍事大国をめざす一方で社会保障の解体と、国民負担を一層すすめています。こうした情勢のもとで、高齢者が若者など多世代と手を結び、日本の社会のあり方を憲法の平和的生存権を生かす社会に変えていく運動の連帯を大きく広げる大会にします。

(2) 東京大会は日本高齢者人権宣言を決定して初めての大会であり、そして世界人権宣言75周年を記念し国連がとりくむキャンペーン期間中(2022年12月10日より1年間)東京大会が開催されます。日本国内に「人権意識」を浸透、高めること、日本高齢者人権宣言を学び、たたかいに活かし、その運動を交流する大会とします。

(3) 日本高齢者大会は高齢期の願いや要求を

実現していく高齢期運動を推進するうえで不可欠の大会です。東京大会の準備を通じて、全国各地で高齢期運動を継続発展させるために地域に広げ根付かせることを目指します。学会や要求運動を通じて大会参加者の組織と合わせて、地域に高齢期運動を広げていきましょう。

### 大会参加目標・大会参加費について、各県連の討議を踏まえて決定します

#### 大会参加目標

大会参加目標は運動目標と同時に、大会予算(収入と費用)・運営に大きく作用するため、2月中に各県連・中央団体で目標・見通し集約して、5月の第2回総会で予算と合わせて決定します。また、すべての都道府県が参加する大会にします。

なお、東京実行委員会は以下の目標設定を提案しています。

#### 現地参加者数 2日間の延べ4,000人

オンライン参加者数 延べ10,000人

(全体会 8,000人

学習講座・分科会 2,000人)

#### 大会参加費

現地参加費・オンライン参加費とも

1日 2,500円

オンライン参加を併用する場合も現地会場・大会宣伝諸経費は減らず、むしろオンライン環境の費用が嵩みます。大会参加費は大会を支える意義があり、次回大会を準備するためにも収支で利益をだす必要があります。東京大会では約300万円の利益確保を目指します。

#### 大会日程

①2023年11月12日(日) 分科会、学習講座、分散会 会場は、2月確定予定

②2023年11月13日(月) 全体集会  
開会 10時15分～13時 終了後デモ行進(予定) 会場は、文京シビックホール(文京区)

## 実行委員会体制

### 中央実行委員会

実行委員長 杉澤 隆宣

(全日本年金者組合中央執行委員長)

事務局長 畑中 久明(日本高連事務局長)

事務局次長 加藤 益雄(全日本年金者組合)

佐藤 長世(神奈川高連)

田中 英男(茨城高連)

寺崎 由郎(三重高連)

### 東京実行委員会

実行委員会代表委員

小澤 満吉(全日本年金者組合東京都本部)

大橋 光雄(三多摩高齢期運動連絡会)

事務局長 菅谷 正見(東京高連事務局長)

実行委員会体制は今後補強していきます。

**第1回東京実行委員会の報告と東京としてのとりくみについて吉岡さんと菅谷さんが発言しました。**

#### 吉岡尚志さん

東京ではこの間、準備会を開催してきた。12月21日に第1回実行委員会を開催した。(以下、報告概要を参照してください)

実行委員会では特に情勢討議を大事にしている。情勢を語る中で東京大会の意義が浮き彫りになる。大会の目的は情勢に対応したものにす。高齢期は誰もが迎える、高齢期運動と高齢者大会は両輪。高齢期運動発展のために大会は不可欠、大会を成功させるためには運動、地域の強化は不可欠。この土台、日本高齢者人権宣言があると確認している。

大会概要は第1回実行委員会報告を。大会の目的にそって東京大会の特徴を作っている。世代を超えた連帯、「宣言」の企画、女性の参画を強める、事前のとりくみ、イベントを企画したい。前回は数が多かったが講座・分科会は絞って深めていきたい。

#### 菅谷正見さん

企画の内容は充実した検討ができていて心配ないが、東京でやる場合にどういう組織を作

っていくかが大事。今回は戦争ゆるすな、人権まもれ、が一番の中心になる。リアルで延べ4000名以上を全国すべての都道府県よりリアル参加を呼び掛ける。webで1万人を呼びかけたい。そのために接続練習もかねてプレ企画を検討したい。体制では代表委員制、事務局の強化、東京の全行政区に地域実行委員会を要求運動と結び付けてとりくむ。2月22日に「ゆたかな高齢期をめざす東京のつどい」を開き、東京大会も成功させようと確認したい。

### 討議

#### 寺崎由郎さん(日本高連・三重)

地域の要求運動と結び付けて実行委員会を作っていくことは大事、全国へ発信してほしい。できるところで要求に基づいて各地域で作っていく、高齢期のニュースも出して、交流していきたい。

#### 藤原克東さん(京都)

京都では総評に役員も出してもらい協力してもらった。現役世代との協力が今後の運動に生きるの力を入れる意義がある。

全国的なばらつきがあるのでは。この大会を契機に全国を強化する視点が大事。京都では若者と高齢者との連帯をしてきた。若者との連帯を強めることに期待したい。

#### 橋本憲幸さん(福島)

大事な大会と考えているが、県議会選挙が11月12日に投票日になる可能性がある。福島としては選挙に相当力をいれなければならない実情がありますので報告させていただきます。



討議を受けて畑中事務局長がまとめ、情勢のもと大変重要な大会になること、4000名の目標に全国で答えていきたいので2月中には各県の参

加見通しを出していただく、その状況みて参加費、予算を確定していくことを報告。本日を持ちまして実行委員会の確認をしました。

## 第36回日本高齢者大会 in 東京

### 中央実行委員会委員長のあいさつ

杉澤隆宣さん

(全日本年金者組合中央執行委員長)

この情勢のもとで東京大会が歴史に残るような大会になるのではないかと。準備状況も聞いて素晴らしいと感じました。



全国の10万を超える年金者組合の仲間がそれぞれの地域で東京大会の成功をささえるよう、そして全国を激励しながら、重責ですが、大会成功にむけて頑張りたいと思います。

### 東京実行委員会のあいさつ

東京実行委員会 事務局長 菅谷正見さん

アメリカのシンクタンクが台湾有事の試算をだしました。嘉手納基地は残骸の山、アメリカ軍3000以上の死者がでると。日本の被害は試算されていない。横田基地は国道16号を挟んで住宅密集地、日本の中にも大変な参事が。それをアメリカは想定している。岸田首相はそれに合わせて大軍拡をすすめている、いっしょに戦争やると暴走しはじめています。そういう時期に行われる高齢者大会。戦争を絶対に許さない。戦争に走れば人権が蹂躪されるのは当たり前。人権を守っている重要な大会を東京で引き受けることになったと思っています。全力で成功させたい。ご協力をよろしくお願いいたします。



### 閉会のあいさつ

日本高連 事務局次長 寺崎由郎さん

今年は国連の人権宣言の年、その気運をうまく活用しながらいわゆる真ん中世代、通例は40代、50代だが高齢者大会では80代の真ん中は60代、定年前の世代を繋ぐのは、この真ん中世代、ここががんばれる、活躍できる大会にしたいなと思います。世間は分断が行き届いている。この分断をなくす大会にもなる。皆さんとともに先をみながら頑張っていきましょう。本日はごくろうさまでした。

## 第36回日本高齢者大会 in 東京

### 第1回実行委員会 概要報告

#### ①高齢期、高齢者をめぐる情勢

核戦争の危機、米中対立の激化など世界中で戦争の危機が広がっている。またそれはエネルギーや食料の危機、世界中にいのちの危機。

岸田内閣は国際情勢に便乗し、防衛予算の倍増を強行。その予算を高齢者医療や子育て支援策の削減、先送りで見み出そうとしている。高齢者が社会保障改悪の矢面に立たされている。戦争、国防、社会保障の歴史から見て運動面で高齢者の果たす役割は大きい。

#### ②開催の目的の確認

目的：高齢期はだれもが迎える人生の時期である。若者、現役、高齢者などすべての人間が喜びを感じられる社会、安心して高齢期を迎えられる社会を実現すべき。

高齢期運動は高齢期のねがいや要求を実現するために不可欠の運動。その高齢期運動を続け、発展させる原動力は高齢者大会。高齢者大会を成功させ、高齢期運動を持続・発展させなければならない。その基礎となるのが日本高齢者人権宣言。

#### ④概要について

#### ⑤実行委員会 (略)

⑥記念講演について・・・演者とテーマについて 基準案/戦争推進という情勢を踏まえて、東京にふさわしい、男・女可、分野・テーマは



なんでも、心に残る話し、わかりやすい、元気になる演者に依頼する。

#### ⑦ 大会の特徴づくり

○若者、現役、高齢者など世代を超えた参加、交流、論議をめざす大会。

○高齢者人権宣言をベースにおいた企画

○分科会、講座のテーマ、講師等の希望を取る。

○日本高齢者人権宣言の普及、学習など宣言を

生かす運動・活動を交流する。

○女性の参加・参画を強める

○高齢期運動の地域組織を交流し、強める企画を準備する。

○事前のとりくみ、イベント、楽しみにできる、ワクワクする取り組み、企画

2023年1月10日

団体・地域のみなさま

中央社保協  
全日本年金者組合  
日本高齢期運動連絡会

## 2・1 高齢者中央集会・議員要請行動参加の呼びかけ

2・1 集会は、老人医療無料制度が打ち切られた1983年2月1日に行われた怒りの抗議集会から、40年間絶えることなく続けられ、今年41回目を迎えます。

憲法9条を蹂躪し、大軍拡と社会保障崩壊にむけて暴走する日本か、平和で安心して暮らせる社会をめざす日本か、私たちは、重要な歴史の分かれ道に立っています。大軍拡のもとでは、国民負担増と社会保障削減の加速は避けられません。高齢者の人権は危機にさらされています。2022年、私たちは、75歳以上の医療費窓口2倍化反対の取り組みに力を尽くしました。この運動は自公政権の暴走と正面から対決する重要な闘いです。

第35回日本高齢者大会で確認された「日本高齢者人権宣言」は、高齢者は、到達可能な最高水準の身体的、精神的な健康を享受する権利を有し、健康を保持・回復するために必要な医療を受ける権利があると謳っています。私たちは、この宣言に団結し、深刻な受診控えを引き起こしている75歳以上の患者負担2倍化の緊急な凍結を要求する闘いに立ち上がります。

集会後、75歳以上の窓口2倍化を緊急に凍結することなどを求めて議員要請行動を展開します。各団体各地域から、怒りをもって結集されることを呼びかけます。

### (1) 2・1 高齢者中央行動

2月1日(水) 10:30~12:30

参議院議員会館 地下104号室 定員96人

講演 前澤 淑子さん

各団体からのスピーチ

議員あいさつ

集会 youtube ライブ配信

<https://youtu.be/ZXSAoplboxY>



### (2) 議員要請行動

12:30~集会後その場で、意思統一・チーム編成

12:30~15:00 食事後 議員要請行動

・議員要請のみ参加の方は、12:30までに会場にお入り下さい。

主催 中央社保協・全日本年金者組合・医療団体連絡会議・日本高齢期運動連絡会